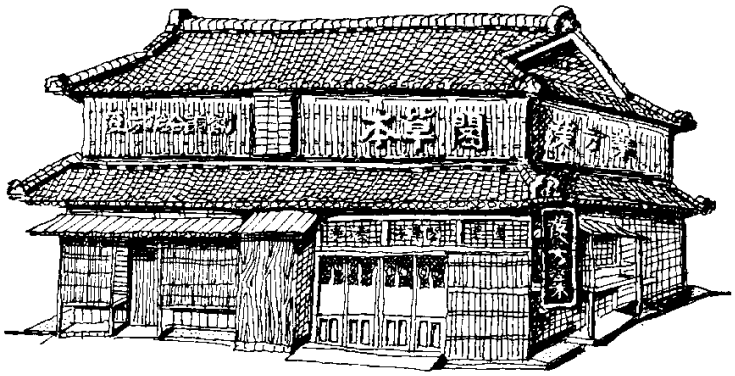
# 本草閣
# かわら版




第７２号

平成１６年８月１５日発行

漢方の本草閣　本店
〒４６０－００１２
名古屋市中区千代田５－２１－１７
（JR 鶴舞駅西）
ＪＲ中央線・地下鉄　鶴舞駅下車
TEL　０５２－２４１－３３８８
FAX　０５２－２４１－３４４３

http://www.honsoukaku.co.jp/
E-mail: kanpou@honsoukaku.co.jp

漢方の本草閣　緑店
〒４５８－００１６
名古屋市緑区上旭１－６２２
（滝の水公園西）
名鉄バス滝の水口下車　徒歩約５分
TEL　０５２－８９９－０２２１
FAX　０５２－８９９－０２３６

http://www.honsoukaku.co.jp/
E-mail: midori@honsoukaku.co.jp

---

## 抗精神薬（安定剤・睡眠薬・・・等）の服用について

イライラする・神経が落ち着かない・カッカする・眠れない・集中できない時・不安でたまらない・自信がない・・・等に新薬の安定剤・睡眠薬・抗うつ薬等の抗精神薬を服用されます。

これらの薬は神経を「鈍・どん」（にぶく）することによる作用です。神経と一緒に他の集中力・記憶力・行動力・持続力・・・等をも「鈍・どん」にします。

一度服用し始めるとなかなかやめることができなくなります。その上段々と錠数が増え、薬に慣れて段々と強い薬になっていきます。

服用にて朝起きれない・何もしたくない・気だるい・絶えず眠い・マバタキしない・口渇・食欲旺盛・まぶたが下がる・体重が増える・下肢が弱る・性欲が減じる・・・等の色々な雑症状が出てきます。

必要に応じて服用することは差し支えませんが、できれば飲まないか、段々減じていきたいものです。

漢方薬にも精神を安定させ、高ぶりを下ろし快い睡眠を得、情緒を安定させる作用の漢方薬が数多くありますので御相談して頂き服用をおすすめ致します。

ただし、抗精神薬は勝手にやめないで下さい。様子を見ながら段々と減じていくことに注意して下さい。

〔文責　林　譽史朗〕

# 民間薬よもやま話

## 第１９回　柿：カキノキ科

秋の味覚として欠かせないものに柿があります。日本の代表的な果実で古くから生活と強く結びついた果物ですが、日本原産ではなく、中国の揚子江沿岸から渡来したものです。

甘い柿は日本に渡ってきてから 80 種が改良され出現したもので、「万葉集」や「源氏物語」のころは渋柿だけであったようです。

果実はとても栄養の高い食品であり、柿の果実、へた、葉、根はそれぞれ薬用とされています。

柿蔕（してい）（柿のへた）の薬効は、横隔膜や呼吸補助筋肉のけいれん性の収縮によるしゃっくりを止めることです。頑強に長く続くしゃっくりには柿のへたを 10 個くらいに水 400cc を加えて煎じ、200cc くらいになった煎じ汁を温めて服用します。少し飲みにくいので、ひねしょうがを少し加えるとよいでしょう。効き目がよく、げっぷも止めることができます。

柿渋（かきしぶ）は、なるべく渋味の強い品種を選び、未熟な柿をとり、へたをはずして、すり鉢に入れて砕き、１割程の水を加えて半年後に圧搾して汁をとります。これをまた容器に入れて密閉して冷暗所で半年くらい熟成させます。薬効は、血管の透過性を高め、高血圧を防ぎます。飲み方は、盃に１杯を牛乳などとともに１日３回服用します。

柿葉には、ビタミンＣがたっぷり含まれており、成葉となるころに採取し、蒸気で２～３分間蒸し、日陰でよく風にあてて乾かします。１日 10ｇを煎じて、お茶のように飲みます。薬効は、血圧降下作用や各種の内出血の止血作用があり、消化器官の潰瘍などによる出血にも応用されます。また、喉のゼーゼーするのを止める作用もあります。

果実の皮をむき、干し柿にしたものを柿餅（しべい）、根を柿根（しこん）といい、止血の目的で吐血、下血に用います。柿餅の表面に出てくる白い粉末状のものは甘く、これを集めたものを柿霜（しそう）といい、これを加熱してアメのようにしたものを柿霜餅（しそうべい）といい、のどの痛み、咳止めに用います。

### ＦＡＸ番号変更のお知らせ

本草閣本店のＦＡＸ番号が変更になりました。
ＦＡＸによる御注文・お問い合わせは下記の番号でお願い致します。
ＦＡＸ　０５２－２４１－３４４３

「本草閣かわら版」編集部　　編集責任者　山口　真広